

# 2023 明治安田生命 J3 リーグ 第7節 vs.FC大阪

4/16 (日) 14:00 kick off @岐阜メモリアルセンター長良川競技場



## 2023 J3 順位表 第6節

勝点、得失点差、得点、失点、岐阜戦の戦績 (岐阜から見て)

1	富山	13p	+4	12	8	
2	松本	12p	+7	11	4	H△
3	岩手	11p	+8	13	5	
4	長野	11p	+4	11	7	
5	愛媛	11p	-1	9	10	A●
6	讃岐	10p	-3	6	9	
7	奈良	9p	+3	9	6	
8	鳥取	9p	+2	13	11	
9	八戸	9p	+1	7	6	A●
10	今治	9p	0	7	7	
11	岐阜	8p	+1	7	6	---
12	鹿児島	8p	-1	6	7	HO
13	琉球	7p	-3	6	9	HO
14	沼津	6p	-1	4	5	
15	FC大阪	6p	-3	6	9	
16	北九州	5p	-1	9	10	A△
17	相模原	5p	-2	6	8	
18	宮崎	5p	-4	2	6	
19	福島	4p	-7	3	7	
20	YS横浜	2p	-7	5	12	

## 次回HomeGame

第9節 vs.YSCC横浜

5/3 (水・祝) 14:00

@岐阜メモリアルセンター長良川競技場

## 大酒場 ホームラン

名鉄岐阜駅前 (三菱UFJ銀行隣り)  
年中無休 午後3時から営業

TEL.058-263-5201

「いらっしゃいませ」より  
「おかえりなさい」が似合う  
アットホームな韓国料理店。

『チヂミ屋』は  
JR岐阜・名鉄岐阜駅から徒歩3分。  
休:月曜日

今日もここから  
串かつで一杯

煮込み珍道中  
串かつ

14:30 ~ 22:00

※売り切れ次第、終了です  
火、水、金、土(祝日除く)営業

TEL. 058-252-1580

忠節橋  
通り

JR 岐阜駅  
北口より  
北西方面へ  
徒歩約 10分

★ アミカ

ドミー  
イン

JR  
岐阜駅

## today's guest : FC大阪

2022 JFL 17勝 8分 5敗 勝ち点59: 2位

### 直近の対決と結果

### 初顔合わせ

### ここ3試合の公式戦の結果

FC岐阜		FC大阪	
2023/04/08 J3 - 6節@ニスタ 愛媛 2-1 岐阜		2023/04/09 J3 - 6節@花園 FC大阪 3-1 今治	
2023/04/01 J3 - 5節@長良川 岐阜 3-1 琉球		2023/04/01 J3 - 5節@花園 FC大阪 0-1 富山	
2023/03/26 J3 - 4節@プラスタ 八戸 1-0 岐阜		2023/03/26 J3 - 4節@ニスタ 愛媛 2-1 FC大阪	

### FC大阪:

1996年に創設。大阪府リーグを抜けて地域リーグ(関西2部)に参戦したのは2012年。2014年の地域決勝で2位(優勝は奈良クラブ)、2015年からJFL。2022年JFLで準優勝となりJ3へ(奇しくも優勝は2014年地域決勝と同じ奈良クラブ)。

このクラブの名を全国に広めたのが、2020年の東大阪市花園中央公園の指定管理者制度の導入。FC大阪が主体の「東大阪花園活性化マネジメント共同体」が応募し、採用となった。この公園は『冬の高校ラグビー』の主会場や『2019ラグビーW杯』の会場でもある「花園ラグビー場」を含む『ラグビーの聖地』で、ラグビー側もこの指定管理者制度に応募していた。「ラグビーの聖地でサッカーの案が採用」には、サッカーとラグビーの双方で大きな話題となった。(吉田鑄造)

●3/26 (日) 第4節・アウェイ八戸戦で、今季初の敗戦を喫してしまったFC岐阜。絶対に連敗は避けるべく迎えた、4/1 (土) 第5節・ホーム琉球戦。試合は序盤に#11 藤岡浩介の今季初ゴールで岐阜が先制するが、それ以降は拮抗した時間帯が続く。しかし後半72分に#14 生地慶充が追加点を決めると、後半86分には#18 田中順也がダメ押しの3点目。試合終盤には琉球に1点を返され、少し危うい場面も見られたが、なんとか逃げ切り3-1で勝利。今季初の複数得点そしてホーム連勝も達成した。続く4/8 (土) 第6節・アウェイ愛媛戦でも勝利して勢いをつけたい岐阜だったが、強風の影響もあってか連係ミスにより前半に失点。そして、後半キックオフ直後の奇襲も防げず2失点。#8 窪田稜のゴールで1点を返したが、その後ゴールが生まれず、1-2で敗戦となってしまった。

この2試合の結果、FC岐阜の戦績は2勝2分2敗・7得点6失点となり、順位は11位。もちろん、まだ首位・富山との勝点差は5しか離れておらず、3位・岩手が勝点差3と1試合で手が届く位置にいるので、再びホームで勝利して、勢いを取り戻したいところだ。そして、連敗ストップという目標も重要だが、それよりも“ホームで負けない”チームであることの方が非常に重要だ。現在、今季のホーム戦績は2勝1分。今節も、ホーム・長良川で着実に勝利を掴み取って欲しい。

さて、今節の対戦相手は、今季からJ参入を果たした“大阪の第3のJクラブ”こと、FC大阪だ。今季から志垣良監督が就任してJ初年度を戦うことになったが、やはり慣れないJ3リーグ、そして(現時点での)上位チームとの対戦に苦しみ、現在は15位。しかし、それまで無敗だった今治に前節3-1で逆転勝利を納めたことで、自分たちのサッカー、特にカウンター型の攻撃スタイルに自信を深めていることだろう。

FC大阪で最も警戒すべき選手には、現在3得点の#32 島田拓海を挙げる。ただし、カウンター攻撃で両サイドからのクロスを得点シーンに結びつけることが多いチームなので、そのクロスの出所を封じることが重要だ。その点では、#11 久保史久斗や#14 田中直基にも警戒しなくてはならない。また、FC大阪には、かつて岐阜に在籍していた#10 エフライン・リントロウ(2011年)、#27 清本拓己(2013~2015年)、#33 禹相皓(2018年)がいる。#27 清本は大怪我のためリハビリ中だが、他の選手は長良川への凱旋に普段以上に気合いが入っていることだろう。ただし、当然ながら岐阜の選手たちも、この長良川で連敗をしないため、普段以上に気持ちは入っているはずだ。

先述したように、相手がカウンター攻撃重視のサッカーをしてくると予想されるため、厳しい競り合いや、攻守の切り替えの激しさが際立つ試合展開になるだろう。そして、選手たちの消耗も大きくなるだろう。そんな試合だからこそ、僕らFC岐阜サポーターは、岐阜の選手たちの背中を押し続け、鼓舞するような、ホームスタジアムの雰囲気を作り上げよう。スタジアムに響き渡る声援と拍手を送り、ゲーフラを掲げ、旗やタオルを振り、選手と共に戦おう。そして、このホーム・長良川で今節も、勝利の歓喜を選手たちと分かち合い、ともに“勝利のHYPER CHANT”を歌おうじゃないか。(ささたく)

投稿募集!! [gidaidohri@gmail.com](mailto:gidaidohri@gmail.com)

## 【第5節】岐阜 3-1 琉球

●早い時間帯に先制でき、中押し、ダメ押しと理想的な試合運び。ATに失点しなければ申し分なかったけどね。

その後のクロスバー直撃もヒヤッとしたけれど、その前のオフサイド取られた幻のゴールのところちょっと集中が削がれちゃったかな。ここはちょっと反省点か。

田中順也の3点目のゴール。琉球 GK カルバハルの動きを見てのワザあり。藤岡浩介との距離感もバッチリ。このあたりはンドカ・チャールスに勉強してもらいたいなあ。

5節終わって2勝2分け1敗の勝ち点8。全体的に粘り強く戦えているのは良い点。あとはしっかりハードワークできている所かな。(岐阜の誇り)

●八戸戦で無得点に終わり敗戦。ならばチーム内競争を活性化させるためにも、上野監督はスタメンを変更してくるだろうと、僕は思っていた。ところが、前節と同じ顔ぶれ。上野監督基準では、現在のスタメンを超える選手がいないのか、それとも実は怪我人だらけで現在のメンバーを揃えるので精一杯なのかしら……などと思いながら、キックオフ。すると、「あ、(たぶん)フォーメーションが変わってる」。4-3-3というよりは、4-4-2。それまでインサイドハーフだった#11 藤岡浩介を一系列上げて、2トップの一角にした形だ。すると、その采配がズバリ的中。#14 生地慶充のクロスにゴール前で詰めた#11 藤岡のヘッドで前半8分に先制点！#11 藤岡の今季初ゴール、やっぱり彼は中央最前線でこそ輝く選手ですね！それまでは、悲壮感までも漂わせながらゴールを欲していたように僕には見えていたのだけど、これで良い感じに気が抜けて、得点を量産してくれたら嬉しいことです。ただ、その後は少し苦しい時間帯が続く岐阜。なんとか凌ぎきって前半が終了。後半に追加点を狙いたい岐阜だったが、どうにも遠慮したようなプレーの選択肢が増えていく。無理をして積極的に行って、カウンターを浴びて失点するのが怖いのかも？でも、僕が見たいのは、積極的なプレーの選択をするチームなんだけどなあ……。と、ここで#18 T Jが投入されて攻撃が活性化。後半72分、#14 生地が今度は自ら思い切りよくシュートを撃つと、相手DFに当たってコースが変わりゴールイン！そうなんですよ、やっぱりシュート撃たなきゃゴールは生まれないんですよ！そして圧巻は後半86分。#18 T Jがゴール前でボールを持つと、相手DFを剥がした訳でもないのに、わずかに前に出ている左足を軽く振って、タイミングとコースどんぴしゃの、ベテランらしい技ありゴール！『こういう蹴り方でも点は獲れるよ？』っていう、教材にしたいゴラッソでした。

ただし、その後がいけない。あわや4点目かと思えたゴールがオフサイドで取り消された時に、岐阜の選手たちの緊張の糸が切れたというべきか、足が止まったというべきか。自陣ゴール前で緩慢なプレーで後半ATに1点を返され、そして相手のシュートがゴールポストを叩いた時に、僕は、“あの”敗戦劇を思い出してしまいましたよ(苦笑)。まあ、今回はなんとか逃げ切れたので一安心ですが、3点差をつけた後の試合の終わらせ方には、大きな課題が残ったと思います。どうも今季のJ3は実力伯仲のリーグ戦になりそうな感じもしますし、1点の得失点が大きく影響するかもしれない。最後まで集中しないとATで……(溜息)

まあでも、今季初の複数得点で勝利した試合。しかも、これでホーム戦は無敗継続。勝点3が貰えるのは同じだけど、やっぱりホームでこそ勝って欲しい。そうすればホームの観客も増え、その声援で選手たちに力を与えることが出来るだろう。今季こそは、その好循環が続くシーズンであって欲しいと思う。(ささたく)

●う～ん、手放しでは喜べないかなあ。というより、古傷、トラウマが蘇りそうになった(苦笑)。ボク以外にもいるんじゃないだろうか？そういう方。バー直撃がゴールにならなくて本当によかった。キケンなスコア……なんだからね！3-0は。

決まりそうな雰囲気があった4点目が決まらず、そこから、いっきに持ってかれたね。ウチが勝手に浮き足立った、と言った方が妥当かな？ゲーム・マネジメントはしっかり、きっちりお願いしますよ？

それでも、プリンスに今季初ゴールが出たのはよかった。ゆりかごも出来て何より。オイジくんも加入後初ゴール(J初は済ませてるんだよね？)、おめでとう！3点目のTJのシュートはお見事でした。余分な力が抜けた技ありのゴール。ボールの軌道も狙い通りかな。「お金の取れる」シュートでした。しかし、琉球の前線も怖かったね。清武弟に野田隆之介。交替で出て来るのが阿部拓馬とか。前半の、のだりゅーのシュートは受け方からシュートまでの一連の流れは惚れ惚れしたよ。それでも、勝ち勝ち。ホームで負けないのはイイことだよ。続けてほしいね！(ぐん)

●「決して誉められない快勝」って、こういう試合なんだろうなあ。岐阜のサッカーは、『芸術性(アーティスティック・インプレッション)』という点では高いスコアは出ないだろうけど、このサッカーが出来ていれば大崩れはしないだろうという堅実性の高いものになっている。だから、切った張ったのドンパチではない、勝っても負けても1点差という膠着戦上等の戦い方。前半の開始早々のプリンスの先制点で1-0で折り返したときは、うんうんウチの試合と思った。その後、琉球の中盤の出足が悪くなってオイちゃんの右足、たなじゅんの左足。おいおい快勝じゃないかと思ったさ。

ところが、4点目がオフサイドで取り消しにされてから選手の動きがもやっとしたように見えた。ガッチリしっかり(べったりではないよ)守って3-0のクリーンシートで終わらせるという強い意志が見えなくなった気がした。ミドルを叩き込まれ、さらにはクロスバーが助けてくれて、結果は3-1。うん、快勝は快勝なんだろうけど、誉められない。でも、まだまだチームは成長途上なのだろうから、直すところは直す。だから、チャリーは3点目のプリンスとたなじゅんの距離の取り方や動き方を見て自分のものにしてほしいな。(吉田铸造)

## 【第6節】愛媛 2-1 岐阜

●うーん、J2時代に何とか“魔境・ニンスタ”は卒業できたと思っていたのだけど、やっぱり復活したのかも…とってしまうような試合でした(苦笑)。確かに風は強かっただろう。だけど、飛び出したGKが目測を誤ってボールを逸らしたら、そりゃ失点しますよね……(溜息)。んで、気になるのはそこだけじゃなくて、突破されたのが岐阜の右サイド、つまり八戸の失点シーンと似ていると思ったのは、僕だけじゃ無いと思う。右サイドは#8窪田稜が攻撃に参加する時間が長い分、その空いたスペースを狙われやすい。実際、愛媛に狙われたんだろうと思うし。そこのケアをどうしていくのかが、まだチーム内で整理できていないような気もする。後半キックオフ直後の愛媛の奇襲も、同じ右サイドを狙ってきて、そして成功されてしまう。選手を入れ替えて、何とかケアに成功したように思えるけど、今度は攻撃の勢いが……やっぱり、サッカーってバランスが難しい。何とか、#8窪田稜のゴールで1点を返した(そーいや、こっちも裏抜けの一撃でしたね)けど、その後の攻撃が続かない。負けてるんだから、もっと積極的なプレーを選択して欲しいところなんだけど、どうしても一列後ろにパスを出す場面が多くなってしまふ。それだと、時間が掛かってしまうから、相手に自陣ゴール前を固められるだけなんだけどなあ……(溜息)。現在の岐阜は、相手が固めた守りを易々と吹き飛ばすようなパワープレーが出来るようなチームには見えない(失礼!)ので、この辺りのスピード感も改善が必要だと思った。

結局、1-2での敗戦。今季初の複数失点だったけれど、まあ1点返せたし、得失点差も-1で抑えることができた。今季は“チームの基盤作り”の1年間だと分かっているから、あまり勝ち負けの結果“だけ”に固執する必要は無いのだと分かっているけれど、それでも負けてしまうのは悔しい。この試合で出た課題を、今後の試合では解消して欲しいし、ベンチ外の選手たちには、チームの底上げのためにも、更なる奮起を期待したい。(ささたく)

●久しぶりのニンスタ。コロナで3年空いたのはわかってたけど、スタジアム眺めて、最初に浮かんだのが滝谷の初ゴールが出た、このスタジアムでの初勝利だった。あー、それ以来か・・と感慨に耽っていたのだが、バツタリ出会った昔からのお馴染みさんに「キョーゴが無双してた試合にいませんか?ユニ、破かれたヤツ。」と言われて、ハタと膝を打つ状態に。ああ、アレを思い出せないとは……。ちなみに、この試合で得点決めたのはパウロだった。それも、ハットトリック。す〜っかり忘れてた(苦笑)とすると、5年ぶりか。帰りがいつもメンドクサイからなあ、ニンスタは。

試合の内容としては、もどかしいな、ってトコか。2点目は論外。育成型レンタルのルーキーSBだけじゃなく、CBまでがタテ一本で裏を取られてしまうとは。気をつけなきゃいけない時間帯だったんだけど。でも、ウチもやり返したからね。オアイコ……かな。1点目は……、ねえ。風のせいにしておっか。それと、カラダが伸び切ってもきっちり当てて枠に飛ばした相手FWをホメておく。さすがはマツダリキ。元J1は違いますね。全体的にはホームチームが優勢だったのは否めない。TJにもなかなか収まらなかったね。

最後にエブス入れてパワープレー……だよな?なぜだかわかんないけど、すごく新鮮な感じがしたし、最後まで諦めない気持ちが伝わってきて、妙に腑に落ちた。最近、こういうプレーを見た覚えがないような?単なる物忘れだとは思っけど。選手が挨拶に来た時、普通に拍手が出ていたのにも感動した。そりゃ、結果にも内容にも納得はしてないだろうけど、今がどういう時期なのかをわかっているんだなあ、って。(個人の感想です。)そーいや、ボク自身がゴール裏で声出し観戦するのも、コロナ以降は初めてだ。浦島太郎には及ばないけど、歳月の流れを感じたね。(ぐん、)

●まあ、負けますよね。シーズン長いですし……って、八戸戦の時に書いたな。気になるのは、愛媛戦の2失点目がその八戸戦の失点のリプレイみたいに見えたこと。試合全体も押されている印象が強かったので、リョウの一発で1点差に出来ただけでもOKかも。

これも八戸戦の時に書いたけれど、負けても1点差。「試合にはなっている」。次は勝ちましょう。それでよいのです。(吉田鑄造)